

次世代ボランティア活動推進プログラム (案)

若者の「自己実現」に向けた歩みを
共助社会づくりの礎に！



令和元年6月
徳島県

目 次

「次世代ボランティア活動推進プログラム」の策定にあたって -----	1
第1章 ボランティア活動について -----	2
(1) ボランティアについて (定義) -----	2
(2) ボランティア活動の特徴 -----	3
(3) ボランティア・NPO活動に関する現状と課題 -----	4
第2章 プログラムの目的・方向性 -----	7
ポイント① 若者が「共感」し、「持続的な活動」に繋がる仕組みづくり ----	8
(1) 若者のボランティア活動の参画促進・裾野拡大 -----	8
ポイント② NPO・ボランティア活動の「継承・発展」に繋がる仕組みづくり --	9
(1) 次代を担う若者のボランティアリーダー養成 -----	9
(2) NPO・ボランティア活動の拡大・活性化 -----	9
ポイント③ 活動支援に向けた「体制強化」 -----	10
(1) 中間支援センターの取組み強化等 -----	10
第3章 戦略プログラム -----	11
1 若者のボランティア活動の参画促進・裾野拡大 -----	12
(1) 情報発信戦略 -----	12
(2) 世代別活動推進戦略 -----	13
2 ボランティア活動の継承・発展 -----	15
(1) 活動継承・発展戦略 -----	15
3 活動支援に向けた体制強化 -----	16
(1) プログラム浸透戦略 -----	16
(2) 支援体制の強化戦略 -----	17
4 「新たな潮流」への対応 -----	18
(1) 新たな潮流への対応戦略 -----	18
各機関の役割について -----	20
次世代ボランティア活動推進プログラムの用語について -----	26
次世代ボランティア育成プロジェクトチーム委員名簿 -----	27

「次世代ボランティア活動推進プログラム」の策定にあたって

地球規模で山積する課題を解決するため、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」では、「誰ひとり取り残さない」をスローガンに、全ての国や企業、団体、そして個人が共通して取り組むべき目標が示され、中でも、実施手段として「パートナーシップで目標を達成する」ことが掲げられています。

また、日本においては、急速に進む人口減少や東京一極集中を打破するため地域がそれぞれの特徴を生かし、自律的で持続的な社会を創る「地方創生」の実現が急務となっています。

一方、ボランティア活動は、気軽にそして楽しく取り組める自発的活動であり、地域ぐるみで支え合う「共助社会づくり」に大きく貢献するとともに、「少子高齢化」や「自然災害」への対応など、地域の課題にきめ細やかに対応できる特性を有しています。

県におきましても、社会貢献活動の支援拠点である「とくしま県民活動プラザ」において、ボランティア活動の普及拡大に向けた「機運醸成」や「活動の場の提供」、「ボランティア団体の支援」などに鋭意取り組んでいるところです。

特に、「ボランティア活動に取り組む人材の育成」につきましては、施策の「重要な柱」として位置付け、小中学校、高等学校での「出前授業」、社会貢献活動団体の活動に触れる「おためし体験」、「とくしまボランティアパスポート」の運用など、創意工夫を凝らした施策を県内各地で展開して参りました。

しかし、ボランティア活動は、全国的にも、活動者の「固定化」や「高齢化」に伴う「後継者不足」が常態化し、活動の衰退が危惧されております。

更に、災害への対応や、地方創生のためのまちづくり活動、今年開催される「ラグビーワールドカップ」を皮切りとした「三大国際スポーツ大会」の運営支援など、「新たな潮流」も視野に入れた対策が求められているところです。

このため、次代を担う若者から「共感」が得られ、「持続的な取り組み」に繋がる指針となる「次世代ボランティア活動推進プログラム」を策定し、本県で誕生し、全国のボランティア活動が活性化する契機となった「善意銀行」や、本県から全国へと広がった「アドプト・プログラム」など、これまで様々な活動分野で培われてきた「ボランティア精神」や「手法」を継承し、更に磨きを掛けていく「後継者の育成」や、社会貢献活動の「裾野拡大」をより一層加速して参ります。

このプログラムを「指針」として、具体的な施策を構築・展開することにより、若者の躍動感溢れる活動を拡大し、「共助社会づくり」を次世代に着実に繋いでいけるよう取り組みを進めて参ります。

第1章 ボランティア活動について

(1) ボランティアについて (定義)

ボランティアとは、自分から進んで社会活動などに無償で参加する人、またはその活動です。一般的にボランティアの理念として、自分から行動すること、ともに支え合い協力し合うこと、見返りを求めないこと、より良い社会の実現を目指すことがあげられ、次のように言い換えることができます。

ボランティア活動の三原則

○自発性=自分の意志で行う

誰かに強制されたり義務で行ったりするものではなく、自分の意志によって、日々の生活の中で、自然に取り組めるものです。

○公共性=社会をつくり出す

地域のいろいろな人が参加し、支え合い、暮らしやすい社会をつくる楽しい活動です。

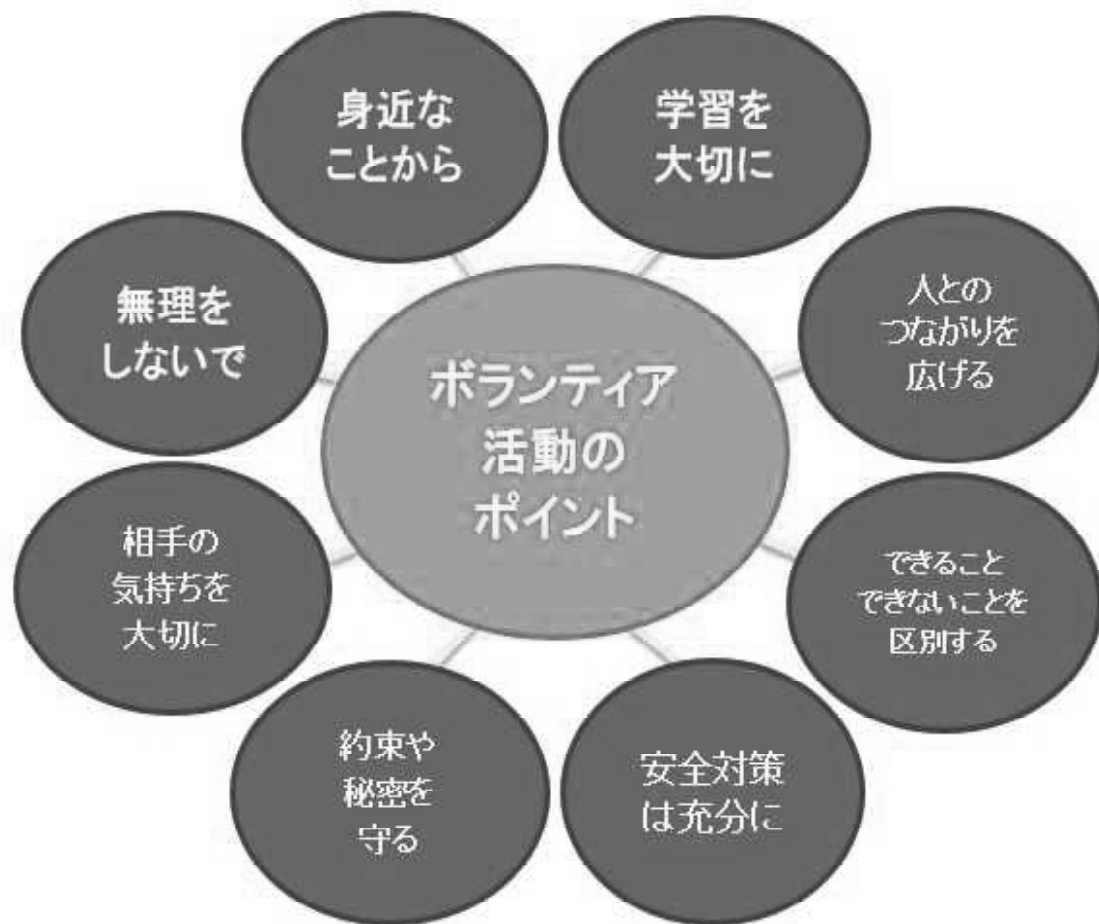
○無償性=金銭的な見返りを求めない

労働やビジネスと違い、金銭的な見返りを求めない活動です。

※交通費や食費、材料費などの実費弁償については無償の範囲としています。

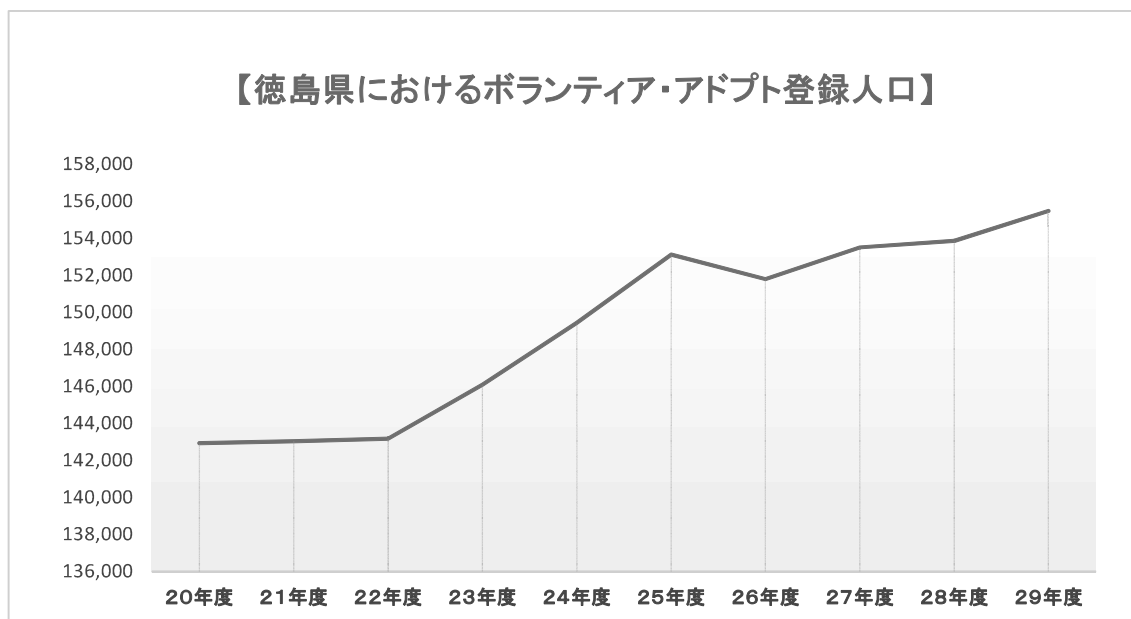
(2) ボランティア活動の特徴

ボランティアは、自分に関心のあるテーマで、自分にできることから始められるとても身近な活動です。ボランティア活動は、地域や社会をより良くしていくことに役立つとともに、活動する人自身の生活を豊かにする力を持っています。みんなが気持ち良く有意義にボランティア活動を続けていくためには、次のようなポイントに注意しながら活動することが求められます。



(3) ボランティア・NPO活動に関する現状と課題

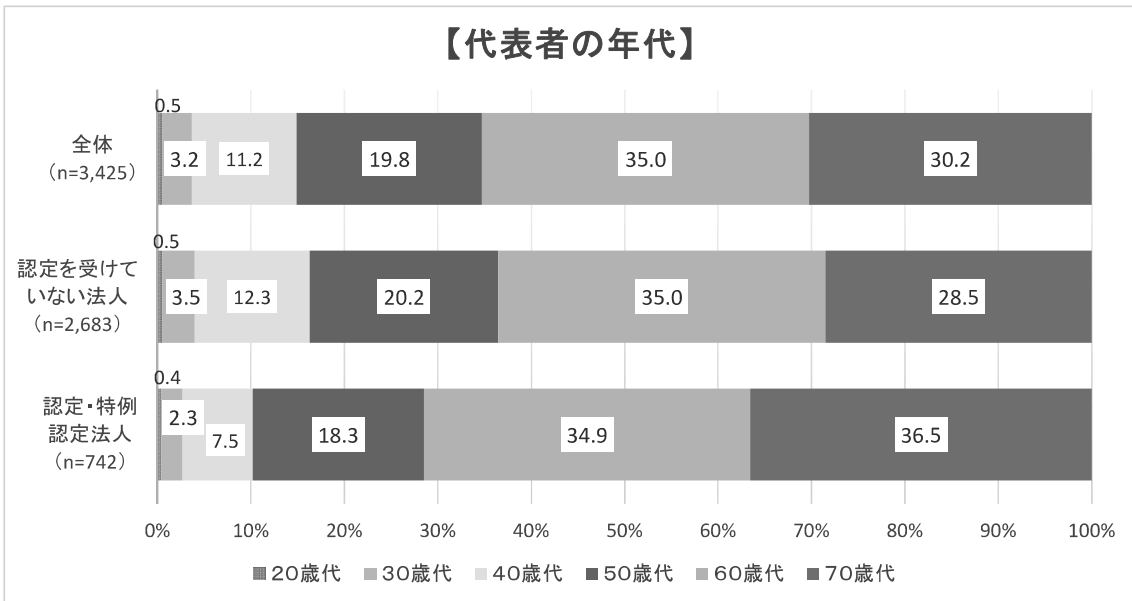
徳島県におけるボランティア人口は、平成30年4月現在で約15万5千人であり、アドプト・プログラムをはじめとしたボランティア活動に、多くの方が自主的に取り組んでいます。



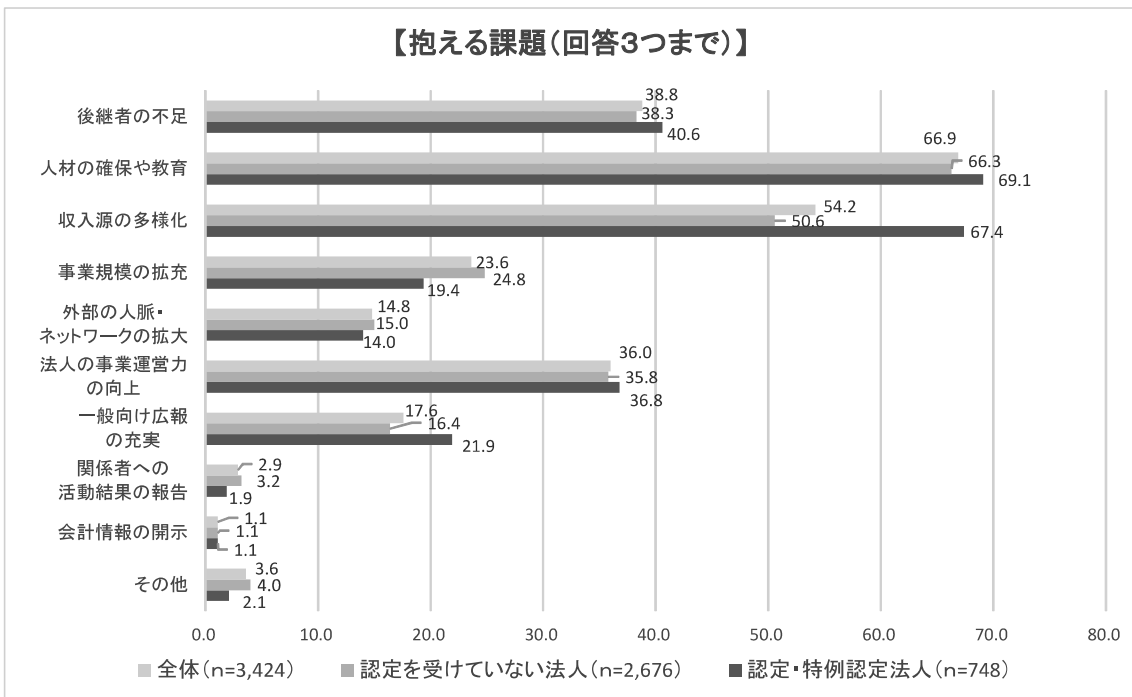
※徳島県県民環境政策課調べ

(県社会福祉協議会が把握しているボランティア人口等とアドプトプログラムに登録している人口等を集計したもの)

一方、全国的に少子高齢化や人口減少が進行し、ボランティア・NPOの活動分野においても、活動団体の構成員が「固定化」し拡大していかないことや、この結果として「高齢化」が進行し、ひいては活動規模の縮小や休止・解散に至るといった悪循環に陥っています。



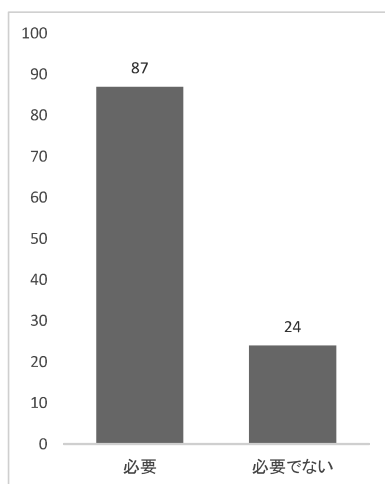
内閣府「平成29年度特定非営利活動法人（NPO法人）に関する実態調査」



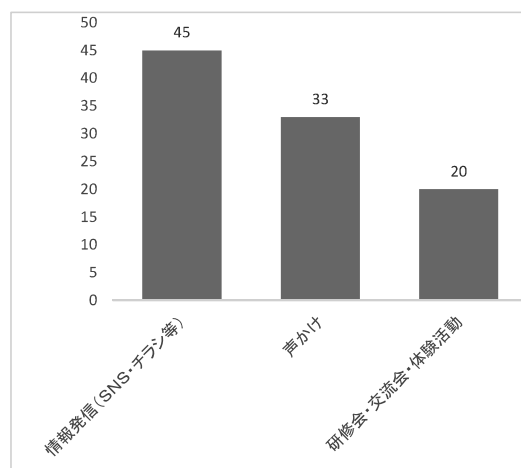
内閣府「平成29年度特定非営利活動法人（NPO法人）に関する実態調査」

本県においても、ボランティアを必要としているNPO法人やボランティア団体は約8割にのぼり、若者をはじめとした会員数の増加や後継者の発掘・育成のために様々な工夫をしているものの、必ずしも結果に結びついていないのが現状です。

Q：団体の活動にボランティアは必要か



Q:若者をはじめとした会員数の増加や後継者発掘・育成のためにどんな工夫をしているか



とくしま県民活動プラザ登録団体に対するアンケート調査（平成31年1月実施）

※グラフ内の数値は団体数

更に、今年の「ラグビーワールドカップ」を皮切りとした「三大国際スポーツ大会」の運営支援をはじめ、災害への対応、地方創生に資するまちづくりなど、ボランティアの活動分野における「新たな潮流」も視野に入れた対策が求められているところです。

このような「新たな潮流」に対応していくためにも、ボランティア活動の「固定化」と「高齢化」を改善し、「共助社会づくり」を一層加速させていく必要があります。そのためには、これまで培われてきたボランティア活動の経験や成果を継承し、更に磨きをかけていく「人材」が求められており、特に次代を担う若者へのボランティア活動の普及拡大が重要となっています。

第2章 プログラムの目的・方向性

若者のボランティア活動への参画を促進するため、本プログラムでは以下の観点からアプローチします。

**若者の「自己実現」に向けた歩みを
共助社会づくりの礎に！**

ポイント①

若者が「共感」し、「持続的な活動」に繋がる仕組みづくり

ポイント②

NPO・ボランティア活動の「継承・発展」に繋がる
仕組みづくり

ポイント③

活動支援に向けた「体制強化」

ポイント①

若者が「共感」し、「持続的な活動」に繋がる仕組みづくり

(1) 若者のボランティア活動の参画促進・裾野拡大

本来、ボランティア活動は、気軽に楽しく取り組める自発的活動ですが、「ボランティア活動＝社会や人のために、意識の高い人が行うもの」というイメージが強く、ハードルが高いと感じる若者は少なくありません。

また、ボランティア活動に関する情報が散漫であるため、興味はあっても、欲しい情報が手に入らず、活動に参加する機会を逸してしまっていることも考えられます。

一方で、「交友関係の拡大」「イベントへの参加」といった自分の楽しみのため、また、「進学や就職、単位取得、スキルアップ」といった自己実現のためにボランティア活動に参加している若者もいるのが現状です。

そこで、これまでボランティア活動に参加したことのない若者に興味を持ってもらうためには、「ボランティア活動＝社会のため、人のため」という概念を押し出すのではなく、「仲間ができて楽しい」「自分のためになる」など、活動する人にとってメリットがあることを打ち出し、若者に「共感」してもらうことが必要となります。

さらに、ボランティア活動をもっと身近に感じられるよう、若者がボランティア活動に関する情報を必要としたときに、確実に情報を届けることができる環境づくりが重要です。

楽しみながら始めたことが、結果として地域が良くなることに繋がっている（「自己実現」から「相互実現」へ）と意識したとき、その活動への「共感」を生み出すこととなり、活動をさらに継続していく動機づけになると考えられます。

ポイント②

NPO・ボランティア活動の「継承・発展」に繋がる仕組みづくり

(1) 次代を担う若者のボランティアリーダー養成

せっかくボランティア活動に参加したものの、そこで得られる達成感や満足度が低いと次の参加には繋がりません。このため、継続的な参加を促すには、ボランティア活動の内容充実や団体側の受入体制が整っていることが重要となります。

受入団体の体制が整い、若者が「楽しさ」を感じながら、繰り返し参加していく中で、人との繋がりが増え、地域に興味を持つことにより、ボランティア活動の中心的役割を担う「ボランティアリーダー」として活躍する若者が誕生します。

(2) NPO・ボランティア活動の拡大・活性化

NPO法人やボランティア団体側の都合を優先した結果、若者がボランティア活動に楽しさややりがい、人と人のつながりを感じることができなければ、次回以降の参加は見込めません。多くの団体が、人手不足により活動規模を縮小すれば、社会貢献活動全体が停滞してしまう恐れがあります。

そのため、若者にとって魅力ある活動と人材が受入側の団体に存在し、かつ、若者向けの育成プログラムが構築されていることが重要です。

また、起業やスキルアップに関心のある若者に向け、キャリアアップの観点から社会貢献活動に触れる機会を創出することも必要です。

ポイント③

活動支援に向けた「体制強化」

(1) 中間支援センターの取組み強化等

NPO等の社会貢献団体のための中間支援センターである「とくしま県民活動プラザ」をはじめ、県・市町村ボランティア推進センターが、ボランティアに関する情報を積極的に発信することで、若者のボランティア参加への機会を増やすことに繋がります。

また、各センターの体制強化はもとより、ボランティア活動を希望する若者と、ボランティアを必要とする団体とを繋ぐ役割を専門的に行う「ボランティアコーディネーター」の育成が重要となります。

さらに、中間支援センターが中心となって、NPO法人やボランティア団体、行政や学校、他の中間支援センター、スポーツや国際、防災などの専門団体と広く連携することにより、若者がボランティア活動に触れる機会を拡大させていくことも必要です。



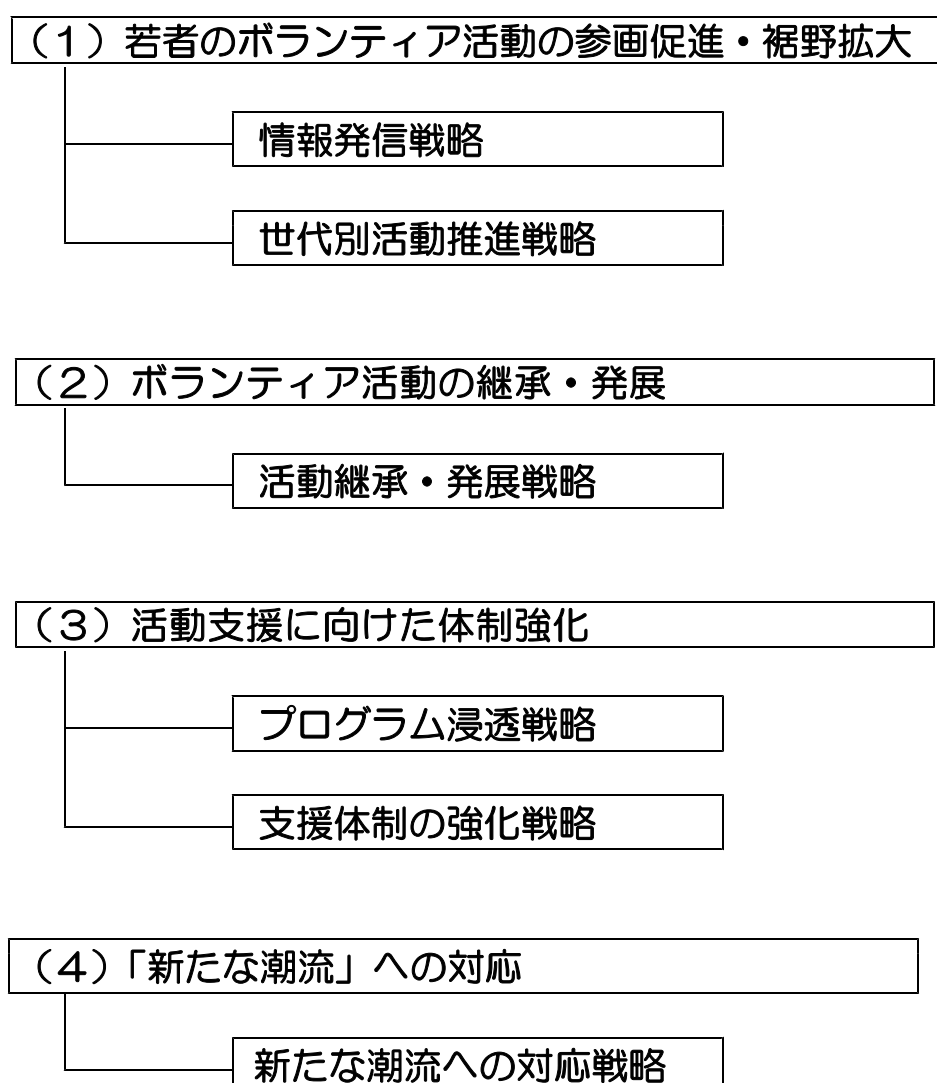
とくしま県民活動プラザ

第3章 戦略プログラム

前章で記載したポイントを踏まえ、若者のボランティア活動を推進するための具体的な方策を「戦略プログラム」としてまとめました。

この「戦略プログラム」を指針として、とくしま県民活動プラザをはじめとする中間支援センターや多方面の関係機関と連携し、具体的な施策を構築し、展開していきます。

戦略プログラム体系図



1 若者のボランティア活動の参画促進・裾野拡大

(1) 情報発信戦略

(2) 世代別活動推進戦略

(1) 情報発信戦略

若者がキャッチしやすく、共感・関心を惹く内容を発信するとともに、各世代（幼児・小中高校・大学・社会人）にそれぞれ効果的に情報を届けます。

① 広報ツール

(ア) 「SNS」等の情報媒体の活用

- ☆ボランティア活動に関する情報を、**動画や写真、マンガ**などで分かりやすく視覚化し、**SNSやホームページ**を通じて発信します。
- ☆SNSやホームページの更新頻度を活発化し、常に最新の情報を発信します。
- ☆**テレビ**（ニュース・情報番組やCM）による啓発を実施します。
- ☆第一線で活動する、若者に影響力のある**インフルエンサー**や、身近なところで魅力的な社会貢献活動を展開している**学生**などに情報発信の協力を依頼します。

② 共感を得るための情報発信

(ア) 「共感」と「関心」を惹く情報発信

- ☆「若者のボランティア活動体験」や「ボランティア活動の第一線で活躍するインフルエンサーや学生からのメッセージ」などをSNSやホームページに掲載します。
- ☆ボランティア活動のイメージが「**楽しさ**」や「**自己満足度の向上**」に繋がる内容を盛り込み、PRします。
- ☆「**インターン**」「**キャリアアップ**」「**チャレンジ**」「**ベンチャー**」など、若者の興味や関心を惹くワードを活用します。
- ☆「**自分の将来設計**」へのメリットを事例で掲載するなど、ボランティア活動を自己実現のツールとしてPRします。
- ☆上記の情報発信手法を軸に据え、NPO法人やボランティア団体が若者のボランティアを継続的に集めるための**講座等**を開催します。

(イ) 身近なところで情報発信

- ☆大学等に設置されている学生向けの「情報発信拠点」と連携し、学校でもボランティア情報を得られるようにします。
- ☆小中学校、高等学校での総合的な学習の時間を活用した「NPO・ボランティア出前授業」を積極的に展開します。
- ☆ボランティア活動の魅力を盛り込んだリーフレットを作成し、学校を通して児童生徒・学生に配布します。

(2) 世代別活動推進戦略

幼児・小中学生・高校生・社会人の各世代別の活動を推進することで、より「共感」してもらいやすい環境をつくるとともに、小さいときから段階的にボランティア活動に触れることで、ボランティアへの関心を高めていきます。

① 世代別ボランティア活動推進

(ア) 幼児・小中学生向け

- ☆「親子」で参加するボランティア活動を展開し、家族単位で社会貢献への関心を高めていただく取組みを促進します。
- ☆小中学校での総合的な学習の時間を活用した「NPO・ボランティア出前授業」を積極的に展開し、座学・体験活動を通じてボランティア活動の魅力に触れる機会を創出します。
- ☆PTAや保護者会、子ども会や少年団※等の活動団体による自主的な社会貢献活動について、取組みの内容や熱意を表明する「ボランティア活動宣言制度」を創設し、様々な媒体を通じてPRを行い、活動の普及・拡大を支援します。
- ☆学校・地域単位で、NPO法人やボランティア団体参画の下、座学・おためし体験・実践の創意工夫を凝らした講座やイベントを開催します。
※「少年団」 スポーツ少年団やボーイスカウト等、主に小中学生を対象とした社会教育団体



学校での「NPO・ボランティア出前授業」



NPOの活動を体験する「びらぎタウン」

(イ) 高校・大学・社会人向け

- ☆部活動やサークル活動として取り組むボランティア活動について、活動強化に向けた情報提供や相談支援、ニーズに応じた講座の開催などを積極的に展開します。
- ☆部活動やサークル活動の一環として行う自主的な社会貢献活動について、取組みの内容や熱意を表明する「ボランティア活動宣言制度」を創設し、様々な媒体を通じてPRを行い、活動の普及・拡大を支援します。
- ☆学校・地域単位で、NPO法人やボランティア団体参画の下、座学・おためし体験・実践の創意工夫を凝らした「ステップアップ」講座やイベントを開催します。
- ☆大学生のボランティア活動をより促進するため、各大学で実施している「とくしまボランティアパスポート」制度等との連携を強化します。
- ☆ボランティア部やボランティアサークル等の活動の輪を拡大していくため、「活動報告会」や「意見交換会」などを積極的に展開し、交流の場づくりを進めます。
- ☆ボランティア活動の環境が自身の「サードプレイス」(憩いの空間)となり、仲間と繋がるコミュニティとして活用できるよう、啓発を展開します。
- ☆大学・行政機関・NPO法人・ボランティア団体が連携した、社会貢献活動の「インターンシップ」制度の普及に努めます。
- ☆ボランティア活動を牽引していく「ボランティアリーダー」養成講座を創設します。

大学生のインターンシップ
「NPOおためし体験アドバンス
事業」の様子



(ウ) 世代を超えた活動支援

- ☆若者を主軸にした提案型の事業に対する助成金制度を創設します。
- ☆ボランティア活動による経験や学びをさらに深めるため、若者と、若者以外の世代が交流できる活動の場づくりを進めます。

2 ボランティア活動の継承・発展

(1) 活動継承・発展戦略

(1) 活動継承・発展戦略

若者に継続してボランティアに参加してもらうためには、受入団体側の体制を整え、互いが「WIN-WIN」の関係になることが重要です。また、ボランティア経験が豊富で、他の参加者のまとめ役となる「ボランティアリーダー」を養成し、ボランティアに参加する側の意識も高めていきます。さらに、継続性を高めるため、事業活動の拡大と活性化を見据えた取組みを進めます。

① 若者の活動参画に向けた支援

(ア) 受入団体の取組み

- ☆若者の共感と関心を惹く情報発信手法及び対応手法等を取りまとめ、受入団体向けに研修会を開催します。
- ☆各団体の活動状況を中間支援センターのホームページで、動画等を使って分かりやすく情報発信します。
- ☆若者に各団体の活動を知っていただくため、若者と受入団体等との交流会や意見交換会を実施します。

(イ) 活動支援組織の取組み

- ☆若者の「ボランティアニーズ」と受入団体の「活動ニーズ」を取りまとめ、相互のニーズに応じたマッチングシステムを構築し、効果的・効率的なボランティア活動を支援します。
- ☆受入団体の活動継承・発展に向け、中間支援センター運営委員会等において、後継者の確保や育成のための研究会を継続的に実施します。

② 活動拡大と活性化

- ☆ボランティア活動を牽引するための「ボランティアリーダー」養成講座を展開します。
- ☆「事業型NPO」や「ソーシャルビジネス」に関心のある若者に対する実践講座の開催や、「とくしまソーシャルビジネス支援ネットワーク」を通じた相談支援体制を運用します。

3 活動支援に向けた体制強化

(1) プログラム浸透戦略

(2) 支援体制の強化戦略

(1) プログラム浸透戦略

本プログラムを多方面に知っていただき、より実効性を持たせるため、中間支援センターにおいて情報を集約し、積極的な情報発信を行います。

① 効果的なプログラムの浸透

(ア) 「SNS」等の情報媒体の活用

☆本プログラムに基づく施策やボランティア活動に関する情報を、**動画や写真、マンガ**などで分かりやすく視覚化し、**SNSやホームページ**を通じて発信します。

☆SNSやホームページの更新頻度を活発化し、常に最新の情報を発信します。

☆**テレビ**（ニュース・情報番組やCM）による啓発を実施します。

☆第一線で活動する、若者に影響力のある**インフルエンサー**や、身近なところで魅力的な社会貢献活動を展開している**学生**などに情報発信の協力を依頼します。

(イ) 身近なところで情報発信

☆大学等に設置されている学生向けの「**情報発信拠点**」と連携し、学校でも本プログラムの情報を得られるようにします。

☆小中学校、高等学校での総合的な学習の時間を活用した「**NPO・ボランティア出前授業**」において、本プログラムを積極的にPRします。

☆本プログラムやボランティア活動の魅力を盛り込んだリーフレットを作成し、学校を通して児童生徒・学生に配布します。

(ウ) プログラムの効果的な浸透

☆中間支援センターにおいて、本プログラムに関する施策を効果的に発信、浸透させるため、情報を一括集約し、発信するための**サイト**を充実します。

(2) 支援体制の強化戦略

中間支援センターの運営体制および各関係団体との連携を強化することで、若者がボランティア活動を気軽にいき、継続できる環境づくりを進めます。

① 中間支援センターの運営体制強化

(ア) 市町村ボランティア推進センターの機能強化

☆各地域に身近な活動支援組織である市町村ボランティア推進センターのコーディネート機能を強化するため、各種研修会や意見交換会等を展開します。

(イ) 中間支援センターの機能・連携強化

☆とくしま県民活動プラザや、徳島市市民活力開発センターが持つ様々な支援機能をより効果的・効率的にコーディネートし、それぞれの強みを生かした活動支援体制を構築します。

☆中間支援センターにおいて、ボランティアと受入団体と受益対象者の三者のニーズを把握し、ニーズの重なり合う「WIN-WIN」情報を特定し、相互実現を目指すコーディネート力の強化を図ります。

☆連携した支援機能を一層発揮させるための役割を担う「ボランティアコーディネーター」の養成を行います。

② 関係機関との連携強化

☆学校、行政、NPO法人・ボランティア団体はもとより、国際スポーツ大会の運営支援や自然災害への対応などボランティア活動を取り巻く「新たな潮流」への対応も見据えた各関係機関との連携を推進します。

③ 各活動団体間の連携強化

☆本プログラムに基づく施策やボランティア活動の情報共有を図り、若者の活動参画を円滑に進めるため、NPO等、各活動団体間でのネットワーク化を促進します。



4 「新たな潮流」への対応

(1) 新たな潮流への対応戦略

(1) 新たな潮流への対応戦略

本県から全国へと広まった「アドプト・プログラム」をはじめ、いつどこで発生するか分からない災害への対応、地方創生を見据えたまちづくりや地域活性化、さらに、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021年ワールドマスターズゲームズ関西と、3年連続で開催される国際スポーツ大会など、ボランティアの力を必要とする分野がこれまで以上に多岐にわたってきています。

若者のボランティア活動がこのような分野にも広がるよう、積極的な情報発信や主催者側とボランティアをする側のニーズ調整などを行います。また、これらのボランティア活動を礎として、更なるボランティア活動の活性化に繋げる「ボランティアレガシー」を継承していきます。

① 情報発信と機運醸成

(ア) 「SNS」等の情報媒体の活用

☆新たなボランティア活動に関する意義や募集に関する情報を、動画や写真、マンガなどで分かりやすく視覚化し、SNSやホームページを通じて発信します。

☆SNSやホームページの更新頻度を活発化し、常に最新の情報を発信します。

☆第一線で活動する、若者に影響力のあるインフルエンサーや、身近なところで魅力的な社会貢献活動を展開している学生などに情報発信の協力を依頼します。

② 若者の参画に向けた支援

☆ボランティア活動を必要とする主催者側の要請に応じ、各世代別に参加しやすい活動の場を関係機関と調整し、マッチングを行います。

③ 活動支援基盤の強化

☆新たな分野におけるボランティア参加への機運醸成に向けた情報発信や、若者の参画支援について、主催者、行政、NPO等民間団体など関係団体との連携を強化します。

④ ボランティアレガシー※の継承

☆各分野のボランティア経験を契機にし、ボランティア活動の定着・拡大に向けた取組みを支援します。

※「ボランティアレガシー」

レガシーを「未来への遺産」と捉え、国際スポーツ大会など新たな分野へのボランティア参加をきっかけに、継続的なボランティア活動につながることを。

各機関の役割について

1 若者のボランティア活動の参画促進・裾野拡大

	行政	中間支援 センター	NPO法人 ボランティア 団体
(1) 情報発信戦略			
① 広報ツール			
(ア) 「SNS」等の情報媒体の活用			
☆ボランティア活動に関する情報を、動画や写真、マンガなどで分かりやすく視覚化し、SNSやホームページを通じて発信します。	○	○	○
☆SNSやホームページの更新頻度を活発化し、常に最新の情報を発信します。		○	○
☆テレビ（ニュース・情報番組やCM）による啓発を実施します。	○	○	
☆第一線で活動する、若者に影響力のあるインフルエンサーや、身近なところで魅力的な社会貢献活動を展開している学生などに情報発信の協力を依頼します。	○	○	
② 共感を得るための情報発信			
(ア) 「共感」と「関心」を惹く情報発信			
☆「若者のボランティア活動体験」や「ボランティア活動の第一線で活躍するインフルエンサーや学生からのメッセージ」などをSNSやホームページに掲載します。		○	
☆ボランティア活動のイメージが「楽しさ」や「自己満足度の向上」に繋がる内容を盛り込み、PRします。	○	○	
☆「インターン」「キャリアアップ」「チャレンジ」「ベンチャー」など、若者の興味や関心を惹くワードを活用します。	○	○	
☆「自分の将来設計」へのメリットを事例で掲載するなど、ボランティア活動を自己実現のツールとしてPRします。	○	○	
☆上記の情報発信手法を軸に据え、NPO法人やボランティア団体が若者のボランティアを継続的に集めるための講座等を開催します。		○	
(イ) 身近なところで情報発信			
☆大学等に設置されている学生向けの「情報発信拠点」と連携し、学校でもボランティア情報を得られるようにします。	○	○	
☆小中学校、高等学校での総合的な学習の時間を活用した「NPO・ボランティア出前授業」を積極的に展開します。		○	○
☆ボランティア活動の魅力を盛り込んだリーフレットを作成し、学校を通して児童生徒・学生に配布します。	○	○	

	行政	中間支援 センター	NPO法人 ボランティア 団体
(2) 世代別活動推進戦略			
①世代別ボランティア活動推進			
(ア) 幼児・小中学生向け			
☆「親子」で参加するボランティア活動を展開し、家族単位で社会貢献への関心を高めていただく取組みを促進します。	○	○	
☆小中学校での総合的な学習の時間を活用した「NPO・ボランティア出前授業」を積極的に展開し、座学・体験活動を通じてボランティア活動の魅力に触れる機会を創出します。	○	○	○
☆PTAや保護者会、子ども会や少年団等の活動団体による自主的な社会貢献活動について、取組みの内容や熱意を表明する「ボランティア活動宣言制度」を創設し、様々な媒体を通じてPRを行い、活動の普及・拡大を支援します。	○	○	
☆学校・地域単位で、NPO法人やボランティア団体参画の下、座学・おためし体験・実践の創意工夫を凝らした講座やイベントを開催します。	○	○	○
(イ) 高校・大学・社会人向け			
☆部活動やサークル活動として取り組むボランティア活動について、活動強化に向けた情報提供や相談支援、ニーズに応じた講座の開催などを積極的に展開します。		○	
☆部活動やサークル活動の一環として行う自主的な社会貢献活動について、取組みの内容や熱意を表明する「ボランティア活動宣言制度」を創設し、様々な媒体を通じてPRを行い、活動の普及・拡大を支援します。	○	○	
☆学校・地域単位で、NPO法人やボランティア団体参画の下、座学・おためし体験・実践の創意工夫を凝らした「ステップアップ」講座やイベントを開催します。	○	○	○
☆大学生のボランティア活動をより促進するため、各大学で実施している「とくしまボランティアパスポート」制度等との連携を強化します。	○	○	
☆ボランティア部やボランティアサークル等の活動の輪を拡大していくため、「活動報告会」や「意見交換会」などを積極的に展開し、交流の場づくりを進めます。		○	
☆ボランティア活動の環境が自身の「サードプレイス」（憩いの空間）となり、仲間と繋がるコミュニティとして活用できるよう、啓発を展開します。		○	
☆大学・行政機関・NPO法人・ボランティア団体が連携した、社会貢献活動の「インターンシップ」制度の普及に努めます。	○	○	○
☆ボランティア活動を牽引していく「ボランティアリーダー」養成講座を創設します。		○	
(ウ) 世代を超えた活動支援			
☆若者を主軸にした提案型の事業に対する助成金制度を創設します。		○	
☆ボランティア活動による経験や学びをさらに深めるため、若者と、若者以外の世代が交流できる活動の場づくりを進めます。		○	

2 ボランティア活動の継承・発展

	行政	中間支援センター	NPO法人 ボランティア 団体
(1) 活動継承・発展戦略			
①若者の活動参画に向けた支援			
(ア) 受入団体の取組み			
☆若者の共感と関心を惹く情報発信手法及び対応手法等を取りまとめ、受入団体向けに研修会を開催します。		○	
☆各団体の活動状況を中間支援センターのホームページで、動画等を使って分かりやすく情報発信します。		○	
☆若者に各団体の活動を知っていただくため、若者と受入団体等との交流会や意見交換会を実施します。		○	○
(イ) 活動支援組織の取組み			
☆若者の「ボランティアニーズ」と受入団体の「活動ニーズ」を取りまとめ、相互のニーズに応じたマッチングシステムを構築し、効果的・効率的なボランティア活動を支援します。		○	
☆受入団体の活動継承・発展に向け、中間支援センター運営委員会等において、後継者の確保や育成のための研究会を継続的に実施します。		○	
②活動拡大と活性化			
☆ボランティア活動を牽引するための「ボランティアリーダー」養成講座を展開します。		○	
☆「事業型NPO」や「ソーシャルビジネス」に関心のある若者に対する実践講座の開催や、「とくしまソーシャルビジネス支援ネットワーク」を通じた相談支援体制を運用します。	○	○	

3 活動支援に向けた体制強化

	行政	中間支援 センター	NPO法人 ボランティア 団体
(1) プログラム浸透戦略			
① 効果的なプログラムの浸透			
(ア) 「SNS」等の情報媒体の活用			
☆本プログラムに基づく施策やボランティア活動に関する情報を、動画や写真、マンガなどで分かりやすく視覚化し、SNSやホームページを通じて発信します。	○	○	○
☆SNSやホームページの更新頻度を活発化し、常に最新の情報を発信します。		○	○
☆テレビ（ニュース・情報番組やCM）による啓発を実施します。	○	○	
☆第一線で活動する、若者に影響力のあるインフルエンサーや、身近なところで魅力的な社会貢献活動を展開している学生などに情報発信の協力を依頼します。	○	○	
(イ) 身近なところで情報発信			
☆大学等に設置されている学生向けの「情報発信拠点」と連携し、学校でも本プログラムの情報を得られるようにします。	○	○	
☆小中学校、高等学校での総合的な学習の時間を活用した「NPO・ボランティア出前授業」において本プログラムを積極的にPRします。	○	○	○
☆本プログラムやボランティア活動の魅力を盛り込んだリーフレットを作成し、学校を通して児童生徒・学生に配布します。	○	○	
(ウ) プログラムの効果的な浸透			
☆中間支援センターにおいて、本プログラムに関する施策を効果的に発信、浸透させるため、情報を一括集約し、発信するためのサイトを充実します。		○	

	行政	中間支援センター	NPO法人 ボランティア 団体
(2) 支援体制の強化戦略			
①中間支援センターの運営体制強化			
(ア) 市町村ボランティア推進センターの機能強化			
☆各地域に身近な活動支援組織である市町村ボランティア推進センターのコーディネート機能を強化するため、各種研修会や意見交換会等を展開します。		○	
(イ) 中間支援センターの機能・連携強化			
☆とくしま県民活動プラザや、徳島市市民活力開発センターが持つ様々な支援機能をより効果的・効率的にコーディネートし、それぞれの強みを生かした活動支援体制を構築します。		○	
☆中間支援センターで、ボランティアと受入団体と受益対象者の三者のニーズを把握し、ニーズの重なり合う「WIN-WIN」情報を特定し、相互実現を目指すコーディネート力の強化を図ります。		○	
☆連携した支援機能を一層発揮させるための役割を担う「ボランティアコーディネーター」の養成を行います。		○	
②関係機関との連携強化			
☆学校、行政、NPO法人・ボランティア団体はもとより、国際スポーツ大会の運営支援や自然災害への対応などボランティア活動を取り巻く「新たな潮流」への対応も見据えた各関係機関との連携を推進します。	○	○	○
③各活動団体間の連携強化			
☆本プログラムに基づく施策やボランティア活動の情報共有を図り、若者の活動参画を円滑に進めるため、NPO等、各活動団体間でのネットワーク化を促進します。		○	○

4 「新たな潮流」への対応

	行政	中間支援 センター	NPO法人 ボランティア 団体
(1) 新たな潮流への対応戦略			
① 情報発信と機運醸成			
(ア) 「SNS」等の情報媒体の活用			
☆新たなボランティア活動に関する意義や募集に関する情報を、動画や写真、マンガなどで分かりやすく視覚化し、SNSやホームページを通じて発信します。	○	○	○
☆SNSやホームページの更新頻度を活発化し、常に最新の情報を発信します。		○	○
☆第一線で活動する、若者に影響力のあるインフルエンサーや、身近なところで魅力的な社会貢献活動を展開している学生などに情報発信の協力を依頼します。	○	○	
② 若者の参画に向けた支援			
☆ボランティア活動を必要とする主催者側の要請に応じ、各世代別に参加しやすい活動の場を関係機関と調整し、マッチングを行います。	○	○	
③ 活動支援基盤の強化			
☆新たな分野におけるボランティア参加への機運醸成に向けた情報発信や、若者の参画支援について、主催者、行政、NPO等民間団体など関係団体との連携を強化します。	○	○	○
④ ボランティアレガシーの継承			
☆各分野のボランティア経験を契機にし、ボランティア活動の定着・拡大に向けた取組みを支援します。	○	○	

次世代ボランティア活動推進プログラムの用語について

次世代・・・10年後20年後の将来のこと。本プログラムでは「次の時代」との意味で使用しています。

若者・・・次の時代を担う世代全般。幼児から39歳程度までの年齢層を想定しています。

ボランティア・・・社会貢献活動を行う人全般のこと。

NPO・・・NPO法人(特定非営利活動促進法に基づく)及び、ボランティア団体(任意団体)のこと。

次世代ボランティア育成プロジェクトチーム委員名簿

分 野	所 属	委 員	
学識経験者	とくしまボランティア推進センター	運営委員長	日開野 博
中間支援センター	とくしまボランティア推進センター	主任主事	香西 卓哉
	徳島市市民活力開発センター	マネージャー	岸田 侑
NPO法人	NPO法人ALIVE LAB	理事長	上田 啓人
	NPO法人You&ゆう	理事長	岡田あかね
	NPO法人エコロジカル・ファーストエイド	理事長	佐藤 貴志
	NPO法人ひとつむぎ	副理事長	高野 風人
	NPO法人アクア・チッタ	理事/事務局長	岡部 斗夢
学生ボランティア	四国大学	3年	長江 夏生
	徳島大学	2年	形部 萌絵
	徳島大学	1年	矢田 詩音
	徳島文理大学	1年	米澤 夏鈴
スポーツボランティア	徳島県 県民環境部 県民スポーツ課	係長	西村 知泰
国際交流ボランティア	徳島GGクラブ		盛 耕祐
	三好市 産業観光部 観光課 ラフティング世界選手権推進室	主査	坂本 優

※H31. 3. 31現在

次世代ボランティア活動推進プログラム

編集・発行 徳島県 県民環境部 県民環境政策課
〒770-8570 徳島県徳島市万代町1-1

電話 088-621-2023

ファックス 088-621-2758

メール kenminkankyouseisakuka@pref.tokushima.jp